

# 昔、ソ連という国があった 編集者の苦心

## ■新編集講座 ウェブ版 第42号 2015/12/15

毎日新聞社 技術本部長（元・大阪本社編集制作センター室長） 三宅 直人

24年前の年末のことでした。1991年12月25日、ソビエト連邦のゴルバチョフ大統領が辞任。米国とともに東西冷戦の立役者だった超大国が崩壊したのです。ロシアやウクライナなど連邦を構成していた12の共和国は、それぞれ単独の国家として独立しました。情報が統制され、最高指導者の動静まで秘密のベールに包まれていたソ連。取材や紙面編集に苦心した経験を紹介します。

### ■「指導部が死亡した」とのうわさ

右図①は82年11月11日の夕刊1面。「ソ連で要人死亡」が4段見出しで載っています。これは悩ましい記事です。

冒頭「ソ連指導部のだれかが死亡したらしいというウワサが流れている」とあります。動静がうわさだけというのはひどい国ですが、とにかく「誰かが死んだのは間違いない」とソ連筋。でも「誰か」が分からず、扱いが決められません。



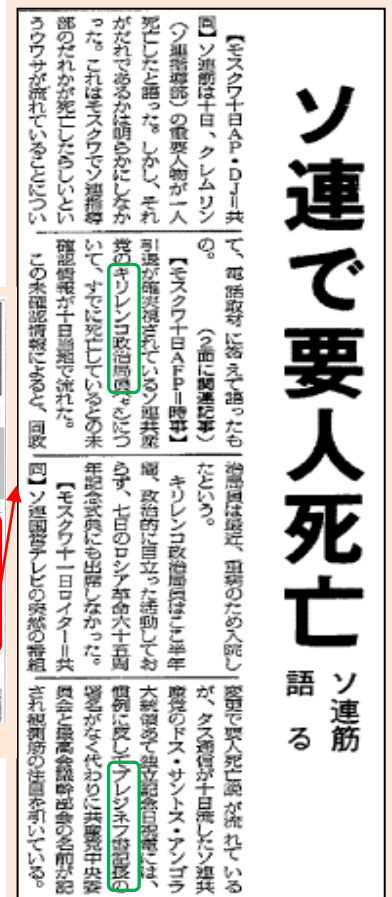
① 82/11/11 夕刊1面

2段目を見ると、死亡したのはキリレンコ政治局員とも取れます。根拠は「革命六十五周年記念式典に出席しなかった」点。一政治局員なら1面4段で十分。でも末尾には最高指導者・ブレジネフ書記長への言及もあります。ブレジネフ死去なら1面トップの大ニュースです。でも根拠が「慣例に反してブレジネフ書記長の署名がなく」だけでは、「ブレジネフ死去」の見出しは打てません。「鉄のカーテン」の情報統制に悩まされたのでした。

### ■ 死の序曲は「沈んだクラシック」

半日後、「ブレジネフ書記長死去」が発表されました。翌12日の朝刊は、1面=図②=をはじめ大展開ですが、社会面=図③=に興味深い記事が載っています。死去の発表前から「テレビ娯楽番組がレーニンの業績をたたえるフィルムと第二次大戦の回顧番組に切り替えられ」「ラジオから流れてくるのは沈んだクラシックの音楽ばかり」という状況になっていました。「死去」のうわさの根拠は、テレビやラジオの番組変更だったわけです。

クラシックで「異変」を察知…。ソ連はこんな国だったのです。社会面の見出し「鎮魂の曲、モスクワに流れて」は、ソ連を痛烈に皮肉った名見出しだと思います。



(上) ② 82/11/12 朝刊1面

(下) ③ 同 社会面



訃報の前奏は、十日夜の民営記  
念目にあたってのテレビ娯楽番組  
が、何の説明もないうまま突然、レ  
ーニンの業績をたたえるフィルム  
と第二次大戦の回顧番組に切り替  
えられたことだった。これは発や  
だ。

## ■ 「荘重なクラシック」再び

ブレジネフ死去から1年半後の84年2月10日、後継のアンドロポフ書記長が急死しました。翌11日朝刊は、1面=図④=に死去の本記（本筋の記事）が掲載されましたが、社会面=図⑤=に、ブレジネフ死去の時と同じ状況が報じられています。

前文に「ラジオから荘重なクラシックが流れ」とあり、本文にも「いつもの明るく軽やかなポップスのかわりに荘重な悲しい音楽が流れている」とあります。モスクワ市民は、発表もないまま、「だれか偉い人が亡くなったらしい」と推測するしかありません。「寒い国」にふさわしい、心の冷え冷えとするエピソードです。

## ■ 後継者は「葬儀委員長」

アンドロポフ死去の1面には、前文下に注目すべき記事が載っています。葬儀委員長にチェルネンコ氏が選出されたのです。

ソ連政治の前例を見ると、最高指導者が死去した際に葬儀委員長を務めた人物が、後継者の地位に就くことがあります。例えば、先に触れたブレジネフ死去の記事=図②=に「アンドロポフ政治局員が葬儀委員長となり」とあり、実際、同氏が書記長に選出されました。

今回も、チェルネンコ氏が後継指導者になる可能性が大きく、トップ記事の見出しにも、「後継チェルネンコ氏？」と大きく扱っています。一義的には特派員の判断ですが、1面の編集者にも、そうした国際政治の知識が求められているのです。

## ■ 見出しになった「クラシック」

そのチェルネンコ書記長が死去した時も、うわさが先行しました。85年3月11日夕刊1面=図⑥=は「国内向け第一放送は…すべての番組をとりやめ、静かなクラシック音楽を流し続けている」と書き、見出しにも「クラシックを放送」とあります。

もちろん1面トップで「ソ連書記長死亡説流れる」と打つ以上、綿密な取材が背景にあり、放送が全てではありませんが、「クラシック」が分かりやすい指標になっていたのでしょう。

死去が確認され翌12日朝刊=図⑦=で報道されました。「後継にゴルバチョフ氏」とあるのが目を引きます。体制行き詰まりに危機感を持った氏は、「ペレストロイカ（立て直し）」を掲げて改革に乗り出しますが、それもかなわずソ連は消滅したのです。